

平成27年度第6回 印西市市民活動推進委員会 企画提案型協働事業 公開審査会（第3次審査） 会議要旨

1. 開催日時 平成27年10月9日（金） 午後2時～4時10分
2. 開催場所 文化ホール2階 多目的室
3. 出席者 粉川一郎委員長、植本崇委員、大和正明委員、安倉史典委員、
玉井和幸委員、北村倫子委員、牧野昌子委員、奥野不二子委員
以上8名
4. 欠席者 植村泰則委員、大野定俊委員、浅賀博委員、桑田佳雄委員
5. 発表者 提案者9名
6. 事務局 松田課長、伊藤、杉山
7. 傍聴者 4名（定員20名）
8. 会議内容 企画提案型協働事業 公開審査会／第3次審査
（公開）
 - （1） 開会
 - （2） 委員長あいさつ
 - （3） 印西市市民活動推進委員の紹介
 - （4） プレゼンテーションの進め方と審査方法等の説明
 - （5） プレゼンテーション
 - 提案1 道作古墳群歴史広場の維持管理事業
（特定非営利活動法人小林住みよいまちづくり会）
 - 提案3 竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業
（特定非営利活動法人エコネットちば）
 - 提案4 印西市木下地区歴史講座
（木下まち育て塾）
 - （6） 審査結果発表・講評
 - （7） 閉会

9. 審査記録

（5）プレゼンテーション

提案1 道作古墳群歴史広場の維持管理事業（特定非営利活動法人小林住みよいまちづくり会）

提案者の発表

- ・パワーポイントを使って、第2次審査時の付帯意見を踏まえ、協働の機会提案書の修正点等について説明した。具体的には、団体の実施するメリットや市にとっての協働のメリット、広報の役割分担について修正した。また、経費内訳書の積算根拠

の記載に単価を追加した。

- ・見積り金額については 1,000 円未満を切り捨てとした結果、積算金額が 2,000 円減となった。

委員長説明

- ・発表者が第 2 次審査に遅刻したことに関する対応として、団体から対策書が提出されたことを報告した。

質疑応答

(質問) 提案書に記載のある人的資源の具体的内容は。

(提案者回答) 家庭菜園を行なっており草刈などに習熟している会員が多くいる。古墳の維持管理以外の活動でも健康マージャンではマージャンの経験者が、小林鯉のぼり大会では一級建築士が活躍しているといったケースがある。

(質問) 担当課のこの事業にかける思いを教えてください。

(生涯学習課回答) 貴重な古墳群を整備し、後世に伝えていく取り組みを以前から行ないたいと考えていた。その中で、維持管理や周知イベントを地元 N P O が主体となって実施することはとても意義があると考えている。

(質問) 小林地区のまちづくりから市全体に発展させるなにかよいアイデアをもっているか。

(提案者回答) 人員も限られておりなかなか広げていくことは難しいが、小林鯉のぼり大会は地域を越えた取り組みになっている。

(質問) コストの計算根拠や積算内容は担当課として妥当と考えているか。

(生涯学習課回答) 適正だと考えている。

(質問) 小林地区のまちづくりから市全体へと、道作古墳群の活動からどう展開していくのか、そのプロセスについてアイデアはもっているか。

(提案者回答) ふるさと案内人協会など他団体と連携した活動を考えている。

提案 3 竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業 (特定非営利活動法人エコネットちば)

提案者の発表

- ・パワーポイントを使って、第 2 次審査の付帯意見を踏まえ、団体の検討結果について説明した。経費の増加分については、菜の花を新たに植える種の費用である。事業については今後も継続していきたいと考えており、そのための方策を市と検討していきたい。協働の機会提案者は第 2 次審査と変更していない。
- ・本提案とは別件であるが、調整池の浚渫工事について市に相談している。

質疑応答

(質問) ハスもメインで管理している植物か。

(提案者回答) ハスは市で植えているが、増えすぎないように管理している。夏にハスまつりを行なっている。

(質問) コスモスまつりはボランティアでまかなっているのか。

(提案者回答) ボランティアでまかなっている。

(質問) 草刈を毎年行うのは大変だと思う。市の事業として一部でも舗装するようなことは可能か。

(都市整備課回答) 池の周りには舗装された遊歩道が整備されている。

(提案者回答) 山側には市道が整備されている。

(質問) イベントなどで他団体が活発に利用すれば公共的な使い方として望ましいと思われるが、そうした利用はあるのか。

(提案者回答) 行政財産使用許可が必要だが、空いていれば使うことはできると思われる。普段は子どもたちがサッカーをするなどそれなりに使われている。ゴルフについては禁止の看板が立っている。

(質問) イベントでのボランティア協力者についても、無償労働力で換算できるものは報告などで示してもらえるとよい。また、イベント時などに事故を起こした場合のリスク管理はどうしているか。

(提案者回答) 以前はまちづくりファンドを活用していたが期限があり助成額も年々減っていくので現在は使っていない。リスク管理については保険をかけるようにしている。

提案 4 印西市木下地区歴史講座（木下まち育て塾）

提案者の発表

- ・パワーポイントを使って、第2次審査時の付帯意見を踏まえ、協働の機会提案書の修正点を説明した。具体的には、提案内容に幅広い世代と市域の市民に参加を呼びかけるとした。また、事業内容に講座修了者へのフォローアップ企画や市の役割を追加して記載した。

質疑応答

(質問) 高齢者が中心になっていくのは事業の性格上やむを得ないと思う。講座の内容は受講者に継続する意欲をもたせるためよりレベルアップした内容にしたり、講座修了後の小論文を審査して賞をおくるなどといった工夫があるとよいと感じた。

(提案者回答) ご意見をとりいれながら具体的な内容を検討していきたい。

(質問) 団体としての活動の目標をどう考えているか教えてほしい。また、講座修了

者が次に講師になっていくような展開を期待している。

(提案者回答) ひとつは利根川に対する関心を高めていきたい。その他、現在行なわれている軽トラ市のような具体的な動きがもっと出てくればよいと思う。

(質問) 利根川の水運がテーマなので、もっと船を活用すればよいのではないか。なにか目玉となるような親子向け企画があるとよいと思うので、検討していただきたい。

(提案者回答) 来年度は親子対象の企画を検討している。ご意見を参考にさせていただきたい。

(質問) 新聞などのメディアに団体の活動が多く紹介されている。団体としてメディアに取り上げてもらうツールやテクニックをもっているのか。

(提案者回答) テクニックがあるわけではない。最初に朝日新聞に取り上げてもらったところ、他の新聞社からも取材の申し込みがくるようになった。今後はテレビなどでも取り上げてもらいたいと考えている。

(質問) 記事がスペースを大きく割いて取り上げられている印象がある。メディアの活用は大変重要であり、そうした部分でも市と協働を進めていただきたい。メディア戦略のようなものをもっているか市にも確認したい。

(生涯学習課回答) 市は広報誌やホームページなど市独自の広報手段がありメディアを活用して広報することはあまりない。市外へのPRは団体の取り組みに任せている状況である。

(6) 審査結果発表・講評

粉川委員長の進行のもと、各委員の評価を集計した審査結果を次のとおり発表した。

【審査結果】

- | | | | | |
|------|---|-----|-----|-----|
| 提案 1 | 道作古墳群歴史広場の維持管理事業（特定非営利活動法人小林住みよいまちづくり会） | ○ 8 | △ 0 | → 適 |
| 提案 3 | 竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業（特定非営利活動法人エコネットちば） | ○ 8 | △ 0 | → 適 |
| 提案 4 | 印西市木下地区歴史講座（木下まち育て塾） | ○ 8 | △ 0 | → 適 |

付帯意見について、ふせんに記載した各委員の意見を模造紙に貼りだして下記のとおり整理し、粉川委員長と牧野委員から紹介した。最後に粉川委員長からの講評として、印西市における協働の取り組みは実は全国的にも大変ユニークでもっと注目を浴びてもよいものがある。自分たちからもアピールしていくことで地域の活性化にもつながるので、そうした点もこれから頑張っていたきたいとエールが送られた。

提案1 道作古墳群歴史広場の維持管理事業（特定非営利活動法人小林すみよいまちづくり会）

【各委員の意見】

団体のネットワーク 良

- ・人的なネットワークがあるので、そのネットワークも使って市民にもこの場所とこの広場のよさが伝わっていけばよいなと思いました。
- ・会として多彩な事業を行っていることが、人材ボランティアの確保につながっていると思います。

計画の変化 良

- ・第2次審査の時に比べ、今回の提案書は経費（コスト）に対する苦勞がしのばれ、コストに対する意識に前向きさを感じられ、グッドである。
- ・第2次審査での「協働の機会提案書」では、枯枝やひこばえ、落葉の発生量が多く（又イベントも多く）、すでに予算超過になっているとのことだったが、今回の見積り積算金額は前回より2,000円削られていて、妥当である。
- ・無償労働力を明確に計算し、有償分と分かりやすく比較できている点は好ましい。

PRにロマンを

- ・子供達に夢とロマンを与えるようなPRの工夫をしてみてもは。
- ・古墳周辺の当時の様子、例えばどんな人の古墳か、どんな豪族がこの地を支配していたのか、マンガ風の創作冊子を作り、広報活動の一環としてみる。

広報の更なる充実

- ・市担当課は、道作古墳群について広報に努め、市民皆の財産となるように期待します。
- ・訪れる人が市内だけに限らず市外への広報もよろしくお願いします。
- ・道作古墳で検索すると、小林すみよいまちづくり会のページが上位でヒットする。こうしたWeb上での地道な情報発信も大変重要なので、継続して、力を入れていただきたい。

市全体への拡がり

- ・この事業をとおして、歴史的な意義のある道作古墳群が市民により愛着を持たれるように期待します。
- ・他の事業と絡めて当該事業を印西市全体に拡大していく **process** を是非考えて下さい。
- ・文化財保全活動の必要性について、意義を認めます。理解者をふやして、ますます活性化していただく様に期待しています。

古墳…難しい

- ・古墳の説明が学術的、かつ無機質で親しみが持てない。

時間大事に

- ・時間内にプレゼンを終らせるように努力して頂きたい。

がんばれ

- ・古墳…事業を核としつつ、前向きで明るく新しいことにチャレンジして下さい。
- ・地道な努力が認められ協働することで安全な憩いの場を維持できるものと思います。大変ですが今後もよろしくお願い致します。

提案3 竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業（特定非営利活動法人エコネットちば）

【各委員の意見】

継続に期待

- ・市民の憩いの場として定着していると思いますので、市との協働を一層強化して継続して欲しいと思います。
- ・イベントにボランティアを活用したり、楽しんでもらうため自主的に参加者に動いてもらうことは、市民をまき込んでいくよいアイデアだと思います。
- ・木下街道と木下駅、及び市役所を結ぶ拠点であり、又近くに高齢者介護施設もあり、年間を通じて美しい水辺の憩いの場を、維持管理し続けることは大切であると思う。又、周辺地域を巻き込む年間のイベントも適切であると思う。
- ・四季の花の整備、水辺の憩いの場として市民が楽しめる場所として定着してきていると思う。みなさまの努力のおかげだと思います。これからも頑張ってください。ありがとうございます。
- ・新たな事業も考えられていて、ますますの活性化がみうけられます。楽しめる方も増えることでしょう。これからもよろしくお願い致します。
- ・流入土砂や遊歩道補修問題等の課題はあるものの、協働事業として問題はないと考えます。今後の展望としてコスモスふれあいまつり等の継続的な開催により着実に認知度とファンをふやす事が更なる発展につながると思います。がんばってください。

ボランティア、メンバーの確保を！

- ・歴史のある NPO では会員の高齢化が問題となっています。提案者負担の無償労働力確保を今後どう考えていくのか。事業継続のために、若いボランティアをひきつけるイベント、広報活動をして仕掛けをお考え下さい。

事業の広報、情報発信を

- ・口頭で質問しましたがイベント時のリスク管理についてはくれぐれもよろしくお願いいたします。
- ・Web、とくにソーシャルメディアを使った情報発信が増えると良いです。素敵な写真をシェアしましょう。
- ・維持管理の他に、そこを使ったイベント事業等、協働事業としての価値といえるのではないか。調整池をみんなの広場としてこのように活用できることを、市外にも伝えていただきたい。

蓮の育成は

- ・ 3年か4年に一度蓮の植替をしなければ、花が咲かなくなるとのことですが、その対策は。
- ・ 蓮が一つの目玉であるのなら、蓮の育成に必要な推移は20cmとされる。これは、将来的に大丈夫なのか。

市への要望

- ・ 毎度のことながら、協働事業のあり方を考え直す事が必要だと思います。行政の一層の知恵をお願いします。
- ・ 遊歩道のみならず、広場等のセメント（道路の部分も含む）の部分をもっと増やし、每期毎期の草刈りの面積を減らしてもらいたい（市に要望）。そうすれば、毎期のコストが減るから。

提案4 印西市木下地区歴史講座（木下まち育て塾）

【各委員の意見】

更なる発展に期待

- ・ 印西市（木下地区）の歴史を学ぶ活動、協働事業として意味があると考えますが、リピーターを増加させる、あるいは、参加される仲間を増加させていく様な活動を期待致します。
- ・ 吉岡まちかど博物館にとらわれずに、水運の歴史を広く伝えることを活動テーマに、さまざまな年代にむけたプログラム開発を期待します。
- ・ 元気な高齢者にもっと勉強してもらうために、他市より更にレベルアップした講座を期待して下さい。
- ・ 歴史的なことはすぐには広められないと思いますので、その中で小学校の町めぐりや参加者が増えてきていることは、続けている努力と思います。少しずつでも広まっていくことを願っています。

具体的アイデア

- ・ 夏期講座では船で迎える木下河岸をテーマに、それ以降、親子で学ぶ木下歴史講座を定着させ、若い世代に、この講座を広めてもらいたいと思う。
- ・ 市民参加（主体）の講座（得意分野を持っている市民）も設定してみてもいいかでしょうか。
- ・ 興味を持ってもらう方策として当時の町並を再現したジオラマを展示してみてもいいでしょう。
- ・ 東京電機大学の力を借りて、当時の町並（木下河岸など）を再現したコンピューターグラフィックスを作成し広報活動にあててみては。
- ・ 小学生から高齢者までの参加を広めるためには、他の全く違うことをしている団体とコ

ラボして、利根川沿いに人を集める方法を考えるなどするのはいかがでしょうか。

- ・まちかど案内人養成講座の開設をしてみても。

情報発信も

- ・歴史文化を後世に伝えることは重要なことだと思いますので、活動の輪を是非広げていって頂きたい。
- ・パワーのあるコンテンツですので、上手く、情報を、メディアに投げてくださいたいです。

(7) 閉会

今後の協働事業のスケジュールについて事務連絡を行なった。本日の結果に基づき、採択候補事業を委員会から市長に答申し、市長が採択事業を決定、関連部署で来年度に向けての予算化、事業実施に向けた準備に入る。

以上